

JBA バイオエンジニアリング研究会の 目指す方向性

バイオエンジニアリング研究会 事務局

バイオエンジニアリング研究会

－設立目的&スコープ－

■設立目的

下記バイオエンジニアリング分野の開発と発展に寄与することを目的として、1988年に設立された。

- ✓バイオインダストリー関連の各種プロセス、装置類およびダウンストリームプロセッシングの合理化
- ✓省エネルギー化または新しい研究成果の工業化

■研究会のスコープ

- ✓医薬品・再生医療・材料・食品・環境・エネルギーなどの**広範な分野**のエンジニアリング領域
- ✓**2030年を見据えた**エンジニアリング技術開発：IoT, デジタル、5G/6Gを用いたバイオエンジニアリング技術開発

バイオエンジニアリング研究会 ービジョン&ミッションー

■ビジョン (将来あるべき姿、目指したい未来の姿)

バイオ産業の共通基盤技術であるバイオエンジニアリングの振興を図り、日本のバイオエンジニアリングのイノベーションを通じて世界に貢献する。

■ミッション (社会において果たすべき使命や任務)

バイオエンジニアリングに軸足を置いた議論・研究の深耕と拡大を通じ、日本のバイオエコノミー戦略の推進に資する。

研究会の方向性＝基本方針 —3本柱—

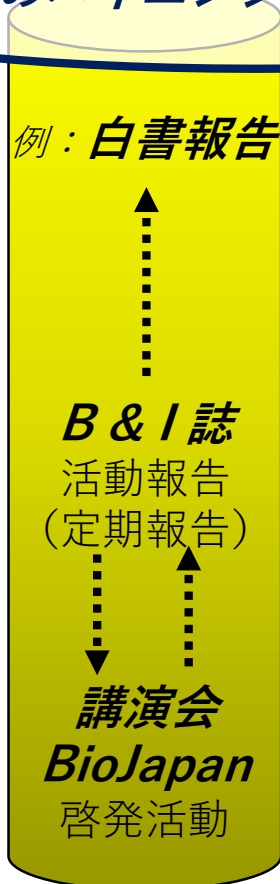
バイオ産業の共通基盤技術であるバイオエンジニアリングの振興を図り、日本のバイエンジニアリングのイノベーションを通じて世界に貢献する。

2030年

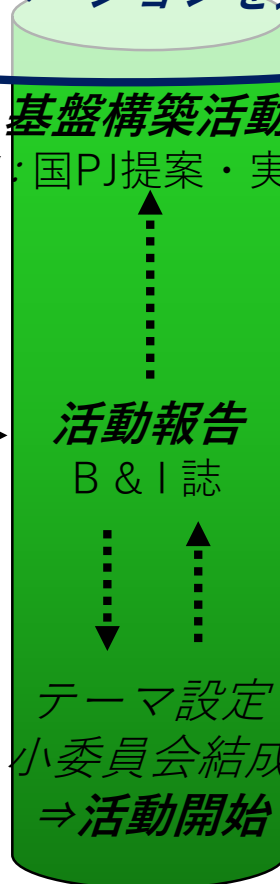
10年後をイメージして活動する！

2025年

2021年



広報・講演・啓発活動
(Open)



小委員会活動
(Closed)



政策提言

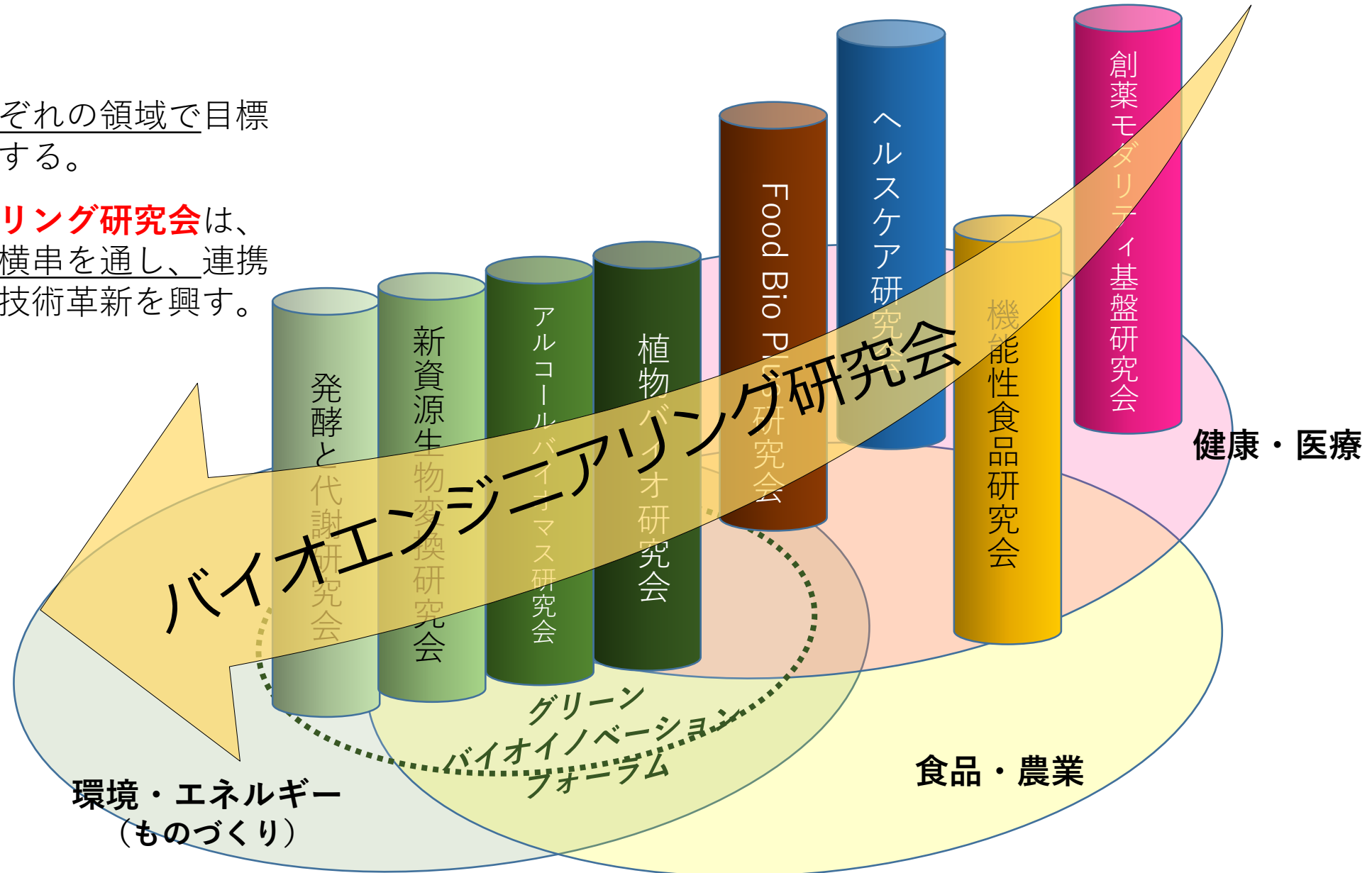
時代に合わせて
順次小委員会を
立ち上げる

- ・バイオ戦略に沿った活動や提言
- ・法規制(制定/緩和)等

研究会の方向性＝基本方針

－横串貫通－

- **各研究会**は、それぞれの領域で目標達成に向けて活動する。
- **バイオエンジニアリング研究会**は、各産業（領域）に横串を通し、連携を強化することで技術革新を興す。



バイオエンジニアリング研究会 小委員会の役割

リーダーがテーマを設定し、
研究会会員（有志）が参加して議論する。
※ 参加者を随時受付中

「色々なことが学べる」

「自分たちの考えや思いが産業に反映される」

「産業・国・世界に関与し貢献していることを実感できる」

そのために、…

■ 会員相互の能動的な議論を育み、日本のバイオ産業の振興と育成に資する

- 研究会活動の三本柱である「セミナー」「小委員会」「政策提言」のひとつとして、
会員相互が忌憚なく意見交換できる、小人数、クローズドの場を提供する。
- 「小委員会」での自由闊達な議論を「セミナー」「政策提言」などの他の研究会活動につなげ、新たな技術開発や制度設計の提案など日本のバイオ戦略の推進に資する。

活動中/活動開始予定の小委員会

① 国際的人材の養成

国際的人材を招聘して議論

② バイオエンジニアリングにおけるオミックス解析技術

公開シンポジウム開講

③ 若手ダイナモ人財

若手(40歳前後)が集って技術・育成等を議論、講演会を企画開催

④ バイオ製品開発のDX・自動化（今年度活動開始）

バイオ由来製品の開発加速を目的とした省力化・知識獲得・人材育成等

研究会の活動(まとめ)

◆総会

- 年1回(年度末)開催、活動報告、新規会員紹介等

◆公開講演会

- タイムリーな内容で毎回1~3演題程度×2023年度は11回開催

◆小委員会活動

- ① 国際的人材の養成
- ② バイオエンジニアリングにおけるオミックス解析技術
- ③ 若手ダイナモ人財
- ④ バイオ製品開発のDX・自動化

◆工場見学会

- 話題の工場(国内・地域を問わず)を訪問・見学(年1回実施)

◆テクニカルセミナー

- バイオエンジの技術関連公開セミナー。最先端かつ重要な技術を紹介